

令和7年度

教育行政執行方針

厚沢部町教育委員会

目次

1	はじめに	1
2	学校教育の推進	3
	（1）確かな学力の育成	3
	（2）豊かな人間性と健やかな体の育成	4
	（3）信頼される学校づくり	7
	（4）グローバル社会に対応した教育	10
	（5）教育環境の整備・充実	11
3	社会教育の推進	14
	（1）青少年の健全育成	14
	（2）生涯学習基盤の強化	14
	（3）芸術文化活動の充実	15
	（4）生涯スポーツの振興	16
	（5）文化財の保存・整備	17
4	むすびに	18

1 はじめに

令和7年第1回厚沢部町議会定例会の開会にあたり、教育委員会が所管する教育行政の執行における主要な方針を申し上げます。

現在、私たちを取り巻く社会は急速に変化し、多様な価値観が交錯する時代にあります。AI技術の進展、グローバル化、気候変動など、未来を予測することがますます困難になっている中で、教育の果たす役割はこれまで以上に重要となっています。厚沢部町においても、時代の変化を踏まえながら、すべてのこどもたちが自らの可能性を最大限に発揮し、持続可能な社会を創り出す力を育む教育の実現が求められています。

こうした背景のもと、本町の教育行政は、国の「第4期教育振興基本計画」、北海道の「北海道教育推進計画」および「厚沢部町教育大綱（第8次厚沢部町教育推進中期計画）」（2023～2027年）の基本理念と方針に基づき、施策を進めてまいります。



第4期教育振興基本計画

令和7年度においては、ウェルビーイング¹の視点を重視し、誰もが心身ともに健康で幸福に生きる力を育む教育を推進します。家庭・学校・地域が連携して、多様な学びの機会を提供し、誰もが安心して学び、成長できる環境を整えてまいります。

1 ウェルビーイング（Well-being）：肉体的・精神的に健康な状態であるだけでなく、社会的・経済的に良好な状態で満たされている広い意味での幸福のこと。瞬間的な幸せではなく、持続的な幸せを意味する。

また、教育のデジタル化に対応し、生成 AI²の活用による教員の業務支援を進めるとともに、デジタル技術の適切な活用を促し、子どもたちが主体的に学ぶ環境を整えてまいります。

さらに、子どもたちが将来の社会で活躍できる力を養うため、国の「子ども未来戦略³」を踏まえ、学習の進度を個々の理解度に応じて調整する「自由進度学習⁴」と課題を主体的に探究する「探究学習⁵」を推進します。すべてのこ



子ども未来戦略

どもが自分に合ったペースで学べるよう支援するとともに、地域の資源を活用した探究型の学びを促進し、主体的に学び続ける力を育みます。

これらの取組を通じ、従来の「揃える教育」から、子どもたちの多様な可能性を伸ばす「伸ばす教育」への転換を図ります。教育の目標は、一律の基準に子どもを当てはめることではなく、それぞれの子どもが自らの特性を活かし、未来を切り拓いていくことにあります。本町では、一人ひとりの学びを大切にしながら、教育行政を進めてまいります。

2 生成 AI：人工知能（AI）の一種で、文章や画像、音楽などを自動で作りに出す技術。教育分野では、学習支援や個別指導に活用されるが、情報の正確性を判断する力を養うことも重要とされる。

3 子ども未来戦略：政府が進める子ども政策の総合的な方針。子どもの成長を支える教育や福祉、家庭支援を充実させ、すべての子どもが健やかに成長できる社会の実現を目指す。（子ども家庭庁では、法令以外については平仮名表記の「こども」の利用を推奨）

4 自由進度学習：児童生徒が自分の理解度や興味に応じて、学習の進め方やペースを調整できる学習方法。一律のカリキュラムではなく、一人ひとりに適した学びを実現し、主体的な学習姿勢を育む。

5 探究学習：自ら課題を見つけ、情報を収集・整理し、考察や発表を行う学習方法。答えが決まっていない問いに向き合い、思考力や問題解決能力を高めることを目的とする。

2 学校教育の推進

はじめに学校教育について申し上げます。

現代社会の変化に対応し、こどもたちの学びを充実させるため、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる5つの柱を推進してまいります。

(1) 確かな学力の育成

1つ目の柱である「確かな学力の育成」について3つの重点を申し上げます。

1点目の重点は「探究的・協働的な学びの強化」です。

GIGA スクール構想⁶のもと、ICT 環境を整備し、個別最適な学びを支援します。オンラインツールを活用した協働学習やプロジェクト型学習⁷を推進し、自ら考え、他者と協働しながら問題を解決する力を養います。また、端末の持ち帰りを進め、家庭と学校をつなぐ学びを促進します。

2点目の重点は「基礎学力の定着と応用力の向上」です。

児童生徒一人ひとりの学習状況を把握し、個別の支援を充実させます。

また、協働学習で論理的思考力や表現力を育成し、デジタル教科書やデジタル教材の活用で学習の最適化を進めます。児童生徒が自ら学習の計画を立

6 GIGA スクール構想：一人1台端末と高速大容量通信ネットワークを使い、誰一人取り残すことなく、公正に個々のこどもにあわせた創造性を育む教育を全国の学校で実現させる構想。

GIGA は Global and Innovation Gateway for All の略。

7 プロジェクト型学習 (Project Based Learning)：問題や課題を児童生徒が自ら発見し、課題解決の過程を通じて、課題解決の資質や能力を身に付ける学習法。PBL という。

て、自己調整学習力⁸を高め、学び続ける力を育みます。これらの取組を通じて、学びあいの好循環を確立し、基礎学力の定着と応用力の向上を一層強化していきます。

3点目の重点は「デジタルリテラシー⁹と AI 時代の学び」です。

急速に深化するデジタル社会に対応し、児童生徒が主体的かつ責任ある情報活用を行えるよう、情報モラル教育¹⁰からデジタルシティズンシップ教育¹¹へ移行します。これにより、単なるリスク回避ではなく、ICT を適切に活用し、社会の一員として責任をもって行動する力を育成します。

AI 技術やデジタルツールの適切な活用を指導し、児童生徒がネットリテラシーを高め、データの信頼性を判断し、発信者としての倫理観をもてるよう指導します。

(2) 豊かな人間性と健やかな体の育成

2つ目の柱である「豊かな人間性と健やかな体の育成」について4つの重点を申し上げます。

8 自己調整学習力：こどもが自ら進んで行う学習する力のこと。勉強ができるかどうかは、生まれつきの頭の良さや教育環境によるものではなく、こどもが自分の持っている能力を発揮するプロセスに関係があるという考え方に基づく。文部科学省では最も重視すべき力と言及している。

9 リテラシー (Literacy)：特定の分野に関する知識や理解力、知識の活用能力。(例) デジタルリテラシー、ネットリテラシー、情報リテラシー、メディアリテラシーなど。

10 情報モラル教育：インターネットの適切な利用やトラブル回避に重点を置く教育。「自分は大丈夫」という無意識の安全視バイアスが働き、逆効果になる恐れがあると言われている。

11 デジタルシティズンシップ教育：オンラインでの倫理的な行動や積極的な社会参加を含め、デジタル社会の一員としての責任やリテラシーを総合的に育成する教育。GIGA スクール構想が始まって以降はデジタルシティズンシップ教育の方が重要とされている。

1点目の重点は「こどもの健康と幸福」です。

スクールカウンセラーを活用し、メンタルヘルス支援やSEL（社会性と情動の学習）¹²を導入し、自己理解や対人関係スキルの向上を促します。

2点目の重点は「多様な体験活動の推進」です。

児童生徒が多様な体験を通じて自己の可能性を広げ、キャリア形成を支援する教育を推進します。社会的・職業的な自立を促すため、多様な人材との交流や職場体験、インターンシップなどの機会を拡充し、学校教育と実社会のつながりを意識できる環境を整えます。これに伴い、キャリアパスポート¹³のデジタル化を進め、自己の成長を振り返る仕組みを強化します。

また、鶉小学校の伝統文化を厚沢部小学校にも取り入れ、両校の特色を活かしたベストミックスの形を創出し、地域の歴史や文化を次世代へ継承します。これらの取組を通じ、児童生徒が自己実現に向けて主体的に学び、多様な選択肢を持てる環境を整備します。

3点目の重点は「いじめや不登校への対応強化」です。

すべてのこどもが安心して生活できる環境を整えるため、いじめや不登校

12 SEL（Social and Emotional Learning 社会性と情動の学習）：自己認識・自己管理、対人関係スキル、意思決定力などを育む教育。感情の理解やストレス対処、協力・共感の力を高めることで、児童生徒が健全な人間関係を築き、社会で適切に行動できる力を養う。

13 キャリアパスポート：こどもが将来なりたい自分を見据え、小学校から高校までに受けたキャリア教育について、自分の学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオ（まとめた書類）のこと。

の未然防止と早期対応を強化します。Q-U¹⁴や子ども理解支援ツール「ほっと」等を活用し、児童生徒の状況を把握し、個別支援の充実を図ります。

また、日常的な対話を重視し、発達支持的生徒指導¹⁵を推進することで、学校内の人間関係の円滑化を図り、児童生徒が互いに支え合う環境を育みます。

さらに、インターネット上のいじめやトラブル防止のため、ネットパトロールを継続し、実態把握と啓発活動を強化します。

不登校支援については、多様な学びの場を提供し、個々の状況に応じた学習支援を実施します。

4点目の重点は「健康教育の推進」です。

体力・運動能力向上に向け、小学校では体育専科教員の巡回指導を継続し、各校の特色を生かした取組を推進します。また、全国体力・運動能力調査を活用し、学校全体で体力向上プランを策定するとともに、冬季の運動機会の確保や地域との連携を進め、運動習慣の定着を促します。

食育については、栄養教諭による計画的な指導を行い、地元農家との連携を通じて地場産品への関心を高める機会を提供します。学校給食はアンケートを活用して内容を見直し、安全管理を徹底しながら、手づくり感のある給食を提供し、児童生徒の健康を維持・向上させるよう努めます。

14 Q-U (Questionnaire-Utilities) : 学校生活における児童生徒の満足度や意欲、学級集団の状態を測定する心理テスト。学校・学級生活への不適應や不登校、いじめ被害の可能性の高い子どもを早期に発見できる。

15 発達支持的生徒指導 : 全ての子どもを対象とした、不登校やいじめ、問題行動等を未然に防ぐための生徒指導。具体的には、子どもにとって学校が安全・安心な居場所となるための日常的な声かけや社会性を育む授業や行事、わかりやすい授業の実施等がそれにあたる。

(3) 信頼される学校づくり

3つ目の柱である「信頼される学校づくり」について、4つの重点を申し上げます。

1点目の重点は「学校における働き方改革」です。

校務のDX化¹⁶を進め、業務の効率化を図ります。具体的には、クラウドサービスやデジタル教材の活用、ペーパーレス化、スケジュール管理のオンライン化などを進めて、教員がこどもと向き合う時間の確保を目指します。

さらに、教職員間の業務の適正な分担を進めるため、タスクシェアリング¹⁷の取組を進めます。教頭業務負担軽減のための校内体制の見直しや、一般教員の学校運営への参画意識の醸成を行い、持続可能な勤務態勢の構築を推進します。これらの取組により、ワークライフバランスの向上と教育の質の向上を目指します。

2点目の重点は「学びの連続性を支える学習評価の多様化と可視化」です。

児童生徒一人ひとりの学びのプロセスを重視し、学習履歴（スタディオログ）を蓄積・活用するデジタルポートフォリオ¹⁸を導入し、学習評価の多様

16 校務のDX化：「校務のデジタル・トランスフォーメーション化」。学校がデジタル技術を活用して、カリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立すること。

17 タスクシェアリング：特定の人が抱える業務を他の人とも分け合う業務の共同化。学校においては、クラウド利用で業務を共有化し、特定の教職員（教頭、学級担任等）だけが行っていた業務で、他の教員も担える場合は協働して行うようにすること。

18 ポートフォリオ：複数の書類をひとまとめにすること。こどもの学習履歴を1つにまとめて個々のカルテのようなものをつくること。

化と可視化を推進します。これにより、学びの継続性を確保し、児童生徒が主体的に自身の成長を振り返られる環境を整えます。特に、認定こども園との連携を強化し、学びの基礎を築く架け橋プログラムを作成することで、年長から小学校1年生への円滑な接続を図り、「小1プロブレム」の解消を目指します。さらに、小中学校間においても、デジタルポートフォリオを活用し、学習履歴を引き継ぐことで、つまずきのない一貫した指導体制を構築します。

また、形成的評価¹⁹の充実を図り、授業中の学びの過程をICT活用によりリアルタイムで記録し、即時フィードバックを行う仕組みを整えます。これにより、児童生徒の理解の深化を促し、主体的・対話的な学びを支援します。

さらに、厚沢部小学校と館小学校合同の宿泊学習や修学旅行などの学習活動を充実させることで、協働的な学びの機会を拡充し、中1ギャップを未然に防ぎます。これらの施策を「厚沢部町小中一貫教育推進基本方針」に基づいて推進し、段差のない小中一貫教育の実現を目指します。

3点目の重点は「学校・家庭・地域が一体となった教育の推進」です。

「令和の日本型学校教育」では、学校・家庭・地域が連携し、こどもたちの学びと成長を支えることが求められています。そこで、地域と学校が連携した持続可能な教育環境を構築します。

学校運営協議会を中心に、地域の教育力を活かした学校づくりを推進しま

19 形成的評価：学習にフィードバックすることを目的とした、学習過程の途中段階で行われる評価。学習目標に対して児童生徒の到達度を評価し、その結果に基づいて授業内容や指導方法等の計画を修正するために行われる。

す。町内の各種団体、企業、専門家と連携し、キャリア教育、探究的学習、文化・スポーツ活動など、地域資源を活用した教育活動を展開するとともに、地域住民が学校教育に積極的に参画できる仕組みを整備します。これにより、こどもたちにとって身近な大人と学ぶ機会を増やし、社会に開かれた学校の実現を目指します。

また、こどもたちの健やかな成長には家庭と学校の協力が不可欠であるため、保護者を対象とした教育プログラムを充実させ、家庭教育の支援を強化します。ICTの活用講座やSNS・インターネットの安全な活用を学ぶデジタルシティズンシップ講座、こどもとの関わり方を学ぶ講座など、ニーズに応じた研修を実施し、学校・家庭・地域が協力しながらこどもたちを育む体制を強化します。

4点目の重点は「義務教育学校開設に向けた準備」です。

令和6年度に策定された「厚沢部町義務教育学校設置に関する基本方針」に基づき、児童生徒がより良い学習環境のもとで一貫した教育を受けられるよう、ハード・ソフト両面での検討を進めます。義務教育学校の整備に向け、持続可能で質の高い教育環境を整えるため、「義務教育学校整備基本計画」を策定します。

また、学校の設計や教育課程の編成に関しては、地域の特色や実情を踏まえた学校づくりが求められることから、地域住民、教職員、こどもの意見を十分に反映する機会を設けます。これにより、地域に根ざした義務教育学校の在り方を検討し、学校と地域が一体となり、質の高い一貫教育を提供できるよう体制を整えます。

(4) グローバル社会に対応した教育

国際化が進む現代社会において、児童生徒が多様な価値観を理解し、異文化に適応する力を身につけることが求められています。そこで4つ目の柱を「グローバル社会に対応した教育」としました。ここでは3つの重点を申し上げます。

1つめの重点は「外国語教育の充実」です。

外国語指導助手（ALT）による指導の充実を図るとともに、学校間や海外の教育機関との双方向型外国語コミュニケーション学習を実施し、実践言語能力を育成します。

2つめの重点は「STEAM教育²⁰の推進」です。

科学・技術・工学・芸術・数学を統合的に学ぶSTEAM教育を推進し、児童生徒の論理的思考力や創造力を育むことを目指します。小学校ではビジュアルプログラミング²¹を活用して基本的なプログラミング的思考を養い、中学校ではAIやデータサイエンスの基礎を学ぶ機会を設け、プログラミング教育の充実を図ります。

また、生活科や総合的な学習の時間と連携し、各教科を横断させつつ、身近な問題を解決するプロジェクト型学習を実施します。地域の産業や自然環

20 STEAM教育：科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術

（Art）、数学（Mathematics）の5つの分野を横断的に学ぶ教育。複数の分野が相互に関連しながら、より実践的で意味のある知識の習得を目指す。これからの時代をつくるこどもに必要な力をつける教育として、文部科学省が推奨している。

21 ビジュアルプログラミング：タブレットやパソコンでブロックを組み合わせるだけの、わかりやすく手軽なプログラミングの方法。世界中の学校やプログラミング教室に広がっている。

境を活用し、実社会とつながる課題を設定して児童生徒が主体的に探究する学習活動を推進します。例えば、地元の農業と連携した環境とテクノロジーの学習、企業と協力したワークショップ、地域のエネルギー問題をテーマにした研究活動などを展開します。

3つめの重点は「多文化共生教育の強化」です。

外国にルーツを持つ児童生徒への支援を行い、多文化共生を促進します。日本語指導が必要な児童生徒への学習支援体制を整備するとともに、異文化交流活動を積極的に実施し、多様な文化を理解し受け入れる態度を育てます。また、地域社会全体で共生社会の形成を目指し、児童生徒が異文化を尊重しながら主体的に学ぶ機会を創出します。

これらの取組を通じて、児童生徒がグローバルな視点を持ち、異なる文化や価値観を理解しながら、主体的に未来を切り拓く力を身につけられる教育環境を整えていきます。

(5) 教育環境の整備・充実

5つ目の柱である「教育環境の整備・充実」について、3つの重点を申し上げます。

1つめの重点は「インクルーシブ教育の推進」です。

通級指導教室の理解促進と教師や特別支援教育支援員への研修を充実させます。また、ユニバーサルデザインの教育環境整備を推進し、すべての児童生徒が快適に学習できる環境を整え、一人ひとりのニーズに応じた学習機会

の充実を図ります。

2つめの重点は「ICT活用の最適化」です。

GIGAスクール構想のもと、個別最適な学習環境を支援します。AIドリルやデジタル教材を活用することで、基礎学力の定着を図るとともに、主体的な学習意欲を引き出します。

また、デジタル教材とリアルな学びのバランスを考慮した授業設計を進め、ICTを効果的に活用しながら、対面での協働学習や体験活動も重視します。デジタルの利点を生かしつつ、紙の教材や実践的な学習活動を組み合わせることで、思考力や表現力を高める授業を展開します。

さらに、ICT支援員を活用し、学校全体のICT環境を最適化します。これにより、児童生徒が学びの多様な選択肢を持ち、未来の社会で求められるスキルを身につけられるよう支援します。

3つめの重点は「安全・安心で快適な学習環境の整備」です。

児童生徒が安心して学校生活を送るため、学校施設の改修を進め、学習環境の向上を図ります。校舎等の老朽化が進んでいるため、経年劣化による修繕や保安上の緊急性が高いものから、計画的な修繕・改修を実施し、安全で快適な学習環境を確保します。

さらに、防災・安全教育の強化に取り組み、災害時に児童生徒が適切な行動をとれるよう指導を充実させます。避難訓練の実施や防災教育の強化に加え、地域の防災機関と連携し、より実践的な防災対策を進めます。また、通学路の安全点検を行い、児童生徒の安全確保を図るとともに、不審者対応やSNSトラブル防止のための指導も強化します。

未来をつくるのはこどもたちです。彼らが自ら未来を切り拓き、持続可能な社会の担い手となれるよう、すべてのこどもたちが安全かつ快適に学べる教育環境の充実に努めてまいります。地域の皆様と共に、すべてのこどもたちの可能性を引き出し、より良い教育の実現に向けて邁進していく所存です。

3 社会教育の推進

次に、社会教育について申し上げます。

ライフステージに応じた学びの充実を地域社会の活力へとつなげられる、多様性を尊重し共に高め支え合う生涯学習社会の実現に向け、次の5つの柱により取り組んでまいります。

(1) 青少年の健全育成

1つ目の柱である「青少年の健全育成」について申し上げます。

家庭・学校・地域・関係機関を含めた地域社会全体が、青少年健全育成に関わる課題を共有し、その解決に向けて協働・支援していくことが求められています。そのため、家庭教育について気軽に相談できる機会の提供や地域の経験者ネットワークづくりなど、共に支え合う互助的支援体制の創出に向け、世代間交流機会や親子参加型活動など、地域や関係団体との連携による持続性のある家庭教育支援を推進します。

「創造の翼事業」では、中学校の道外修学旅行に加え、小学校の修学旅行にも対象を広げ、旅行費用を全額支援します。異文化や歴史、自然に触れることで視野を広げ、ふるさと厚沢部を見つめ直す素晴らしい機会を提供します。

また、人や自然との関わりにおける豊かな人間性や社会性の育成のため、「親子体験フェスタ in 厚沢部川」や「少年少女体験塾」、「木育イベント」等の地域の魅力に触れる多様な体験活動の継続と充実に努めます。

(2) 生涯学習基盤の強化

2つ目の柱である「生涯学習基盤の強化」について申し上げます。

学びの充実が地域の活力や課題解決へとつながり、誰もが生き生きとして

高め合い、支え合える生涯学習社会の実現が求められています。そのため、多様な人材が活躍できる機会を支援し、様々な地域活動に気軽に参画・活躍できる環境づくりと異年齢・異業種間等の交流を推進するため、いきいきライフポイント事業を継続します。

町民の40%以上を占める高齢者の方々が、これまで培った知識や技術を生かして活躍する「伝統技能伝承講座」や、互いに交流し学び合う場としての「^こ幸齢者学級」の充実に努めます。

また、町民の多様な学習機会の提供や地域情報センターとしての役割を果たし、こどもたちが読書に親しむことができるよう、魅力ある図書館の環境づくりに努めます。加えて、小中学生に読書手帳を発行し、読書履歴を記録することで読書への動機づけを行うとともに、本への関心や意欲を高め、読書習慣の確立へとつなげるべく取り組みます。

さらに、読み聞かせ活動に参加するボランティア人材の発掘・育成に努めるとともに、ブックスタート・フォローアップ事業や、図書館クリスマス会、図書館まつり等を継続し、読書啓発機会の提供と充実等、「第3次厚沢部町子ども読書活動推進計画」（2023～2027年）を基調として、読書活動の充実を図ります。

今後も、移動図書館バスの活用や町外図書館との相互貸借等、学校や関係機関との連携による読書環境の整備と充実に取り組んでまいります。

（3）芸術文化活動の充実

3つ目の柱である「芸術文化活動の充実」について申し上げます。

心のゆとりや潤いの源となる芸術文化に親しむことのできる持続的環境の充実が求められています。そのため、地域文化活動の活性化に向け、芸術や

文化に触れる機会の提供や文化伝承の環境づくりをはじめ、文化協会を中心とした各種文化団体の活動や町民文化祭の充実と発展に努めるとともに、各活動への支援を継続します。

また、こどもたちの豊かな情操の涵養を目的に、音楽会や演劇等、優れた芸術や文化に触れることができる「児童生徒芸術鑑賞会」を継続するとともに、「町民文化講演会」が町民にとって新たな発見や感動が得られる新鮮で楽しい学びの場となるよう、幅広い分野にわたる内容の企画・選定に努めてまいります。

(4) 生涯スポーツの振興

4つ目の柱である「生涯スポーツの振興」について申し上げます。

生涯にわたってスポーツに親しむ機会の拡充は、心身の健全な発達や精神的な充足感をもたらし、大変重要な要素となります。そのため、スポーツ協会やスポーツ推進委員、各種スポーツ少年団指導者等の協力のもと、誰もがスポーツを気軽に楽しむ機会の提供や環境づくり、健康増進を目的とした研修講座等の企画・開催に取り組むとともに、一流の技術や迫力を体感し、スポーツ指導者の技術向上、町民のスポーツに対する意識の高揚、こどもたちが未来のアスリートを目指す夢を抱かせるきっかけづくりとして、「夢につながるトップアスリートとの交流事業」を継続します。

また、小学生スイミングスクールやスキー教室などの生涯スポーツ講座は、こどもたちが安心して参加できるよう初心者から経験者までレベルに合わせた指導で、健康な体づくりと生涯にわたるスポーツの楽しさを体験できる機会を提供します。

「第2次厚沢部町スポーツ推進計画」（2023～2027年）の基本方針に基

づき、こどもたちがよりスポーツに参加しやすい環境を整えるため、スポーツ少年団活動費等の支援を強化し、町内各スポーツ団体活動の充実に向けた支援を継続するとともに、関係機関・団体との連携のもと、各種研修会への積極的な参加による指導者の育成と資質向上に努めます。

こうしたスポーツ推進の中核となる総合体育館、多目的交流広場(パークゴルフ場)、総合グラウンド、プールなど、各種社会体育施設の適切な維持管理と保全のため、必要な修繕業務の洗い出しと修繕計画の策定を進めます。

また、令和7年度は総合体育館LED照明化工事を実施し、環境や経済面に配慮するとともに、利用者にとって快適で利便性の高い施設環境を整えます。

部活動の地域移行に関しては、「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」に基づき、段階的に地域移行を進め、令和10年度までの完全地域移行を目指し、生徒や保護者のニーズを踏まえ、多様なスポーツ・文化活動を楽しむ機会を提供するため、地域の団体や学校などの関係者による、運営組織の整備を進めてまいります。



北海道部活動の地域移行
に関する推進計画

(5) 文化財の保存・整備

5つ目の柱である「文化財の保存・整備」について申し上げます。

厚沢部町には、先人から引き継がれてきた伝統文化や史跡、天然記念物等があり、その保存・伝承と有効活用が求められております。そのため、保存・伝承を担う後継者の育成とともに、文化財の維持管理に向けた取組や、価値や魅力の効果的な情報発信の工夫・改善を図ります。

町指定文化財である「鹿子舞」については、町内各保存会による交流会や小学校の総合的な学習の時間等での郷土芸能や伝統文化の保存・伝承活動を支援し、ふるさと厚沢部の魅力や素晴らしさを伝えられる人材の育成に努めます。

「史跡館城跡保存整備事業」については、発掘調査や植生調査等の各種調査成果を踏まえた基本計画改訂版のもと、整備検討委員会の指導を受けながら、保存整備基本設計の策定と基本設計策定に伴う測量調査、支障木伐採を実施します。

「郷土資料館」については、展示資料の点検・整備・改善に努め、定期的な企画展示や学校と連携した郷土学習を実施するなど、今後も有効活用に努めます。

4 むすびに

以上、令和7年度における教育行政推進の基本的な方針と主要な施策について申し上げます。

教育委員会といたしましては、町の将来を担うこどもたちを、教職員・保護者・地域が一体となって育む学校教育の充実と、町民一人ひとりが生き生きと学び合い、支え合い、高め合う生涯学習社会の実現に向けて、関係機関との連携の下、一丸となって全力で取り組んでまいります。

町民の皆様、そして町議会議員の皆様の、ご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます、令和7年度の教育行政執行方針といたします。



令和7年度

厚沢部町教育行政執行方針



教育行政執行方針DL



学校教育

心豊かに学び、厚沢部町の未来を拓く人を育む



確かな学力の育成

探究的・協働的学びの強化
基礎学力の定着と応用力の向上
デジタルリテラシーとAI時代の学び

オンラインツールを活用した協働学習
PBL学習 端末持ち帰り
デジタル教科書・デジタル教材活用
デジタルシティズンシップ教育
ネットリテラシーの向上

Learning



豊かな人間性と健やかな体の育成

こどもの健康と幸福 多様な体験活動の推進
いじめや不登校への対応強化
健康教育の推進

SC活用 人材育成支援 SEL学習 多様な人材との交流
職場体験・インターシップ体験 キャリアパス「特」デジタル化
幼小と厚沢部町の文化融合 Q・U・ほっとの活用
ネットリテラシー強化 体力向上プラン策定
栄養教諭による計画的指導 地場産品学習

Humanity & Health



信頼される学校づくり

学校における働き方改革
学びの連続を支える学習評価の多様化と可視化
学校・家庭・地域一体の教育推進
義務教育学校開校に向けた準備

校務のDX化 クラウド活用
ペーパーレス化 タスクシェアリング
デジタルポートフォリオ 形成的評価
CSの活用 地域資源の活用
探究的学習 保護者向け教育プログラム

Trust



グローバル社会に対応した教育

外国語教育の充実
STEAM教育の推進
多文化共生教育

ALTの指導の充実 双方向コミュニケーション
STEAM教育による論理的思考力・創造力の育成
プログラミング教育 AI・データサイエンス教育
地域産業・自然環境学習 企業連携体験学習
日本語指導が必要な児童生徒の支援 異文化理解

Global



教育環境の整備・充実

インクルーシブ教育の推進
ICT活用の最適化
安心・安全で快適な学習環境整備

通級教室の理解促進 特別支援員研修
ユニバーサルデザイン環境整備
デジタルとリアルとのベストミックス
ICT環境の最適化 防災教育の強化
計画的校舎等の改修

ICT, Inclusive & Inspire

LIGHT

学び、感動を生み、成長し、
調和し、信頼を築く

～Learn, Inspire, Grow, Harmonize, Trust～



社会教育

地域に学び、地域を愛する力を育て、地域力の基礎をつくる



青少年の健全育成

家庭教育支援 世代間交流
親子参加型交流

創造の翼事業の拡充 親子体験フェスタ
少年少女体験塾 木育イベント

Future & Family



生涯学習基盤の強化

読書活動の充実 異年齢交流
伝統技能伝承講座 幸齢者学級

昔の遊び教室 いきいきライフポイント
ブックスタート・フォローアップ事業 読書活動の充実

Learn



芸術文化活動の充実

芸術・文化に触れる機会の提供
町民文化祭・文化講演会の充実
児童生徒芸術鑑賞会

体験機会の充実 文化団体活動支援
幅広い分野における学びの場づくり

Arts & Culture



生涯スポーツの振興

スポーツ環境整備
トップアスリートとの交流
部活動の地域移行

スポーツ少年団活動費等支援強化
生涯スポーツ講座の充実 総合体育館LED照明化

Sports



文化財の保存・整備

史跡・天然記念物の保存と活用
郷土芸能・伝統文化の継承支援
郷土資料館の活用

史跡館城跡保存整備事業の推進
文化財の維持管理・情報発信の工夫

Heritage

FLASH

未来を拓き、学び、文化と
スポーツを楽しみ、歴史を守る

～Future, Learn, Arts, Sports, Heritage～



教育背景



第8次厚沢部町教育推進中期計画

厚沢部町教育目標 「みんながいきいき暮らすまち」

基本目標

- 一、町民が生涯にわたって学び、楽しみ、高められるよう環境を整えていきます
- 一、次代を担う子どもたちの個性を伸ばし、健やかに育つよう努めていきます
- 一、誰もが仲間と共に文化、スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていきます
- 一、町民同士が共に理解し、触れ合える社会の形成に努めていきます



教育推進中期計画DL

